

事例を通して心の問題を考える

研修主事 森 川 泉

1 研究の趣旨

今日、変化の激しい先の見えない不透明な時代にあって、ますます陰湿化してくるいじめ、あるいは増加傾向にある校内暴力、普段問題がないと考えていた子どもの突然の問題行動などが、後を絶たずますますその件数は増えてくる傾向にある。

こういった状況の中で教師は、子どもたちにかかわるか、悩みを深めつつある。

このような学校現場の状況を反映して当教育センターの教育相談の件数が年々増加してきている。7,8年前までは年間300~400件であった相談件数が、以降鰻登りに増加し、昨年度は2000件を超えた。そして、その半数が不登校の相談である。

心理臨床の知見を生かしつつ、教育の問題に実際どう対応していったらよいかを考える格好の場として、教育センターの教育相談という場がある。子どもとどうかわるか、親との関係はどうもっていったらよいかといった実際的な問題に対しての対応を考える場合、教育センターの相談を通して得られた知見が、教育現場において、「臨床の知」という概念のもと、生かされるのではないかと考える。

2 研究の内容

そこで、今回、教育センターにおける教育相談という心理臨床の世界において、その対象である子どもの心の問題が、どのように表れてくるのか。また、子どもの一番近くの援助者である親たちの思いはどうかということ、面接場面で発せられた印象深い「ひとこと」を通して考えていきたい。そこから、子どもたちの《内なる世界》を少しでも理解し、かわり方が見えてくるのではないかと考え、センターに相談に来られた子ども本人やその親が、悩みつつある心の問題について、相談の中でふと漏らした何気ない「ひとこと」を通して、イメージを豊かにし、子どもたちにかかわるいくつかのヒントを提示した。具体的に検討した印象的な一言を挙げると下記のものである。

(1) 相談の中期で出会った印象深い具体的な一言

ア 「僕、ちょっといい子で今まで来すぎた」

イ 箱庭でミニチュアワニの口に女の人の人形をはさんでひとこと「これ、お母さん」

ウ 「弟(妹)みたいに甘えたい」

エ 「お母さん、私を生んで、よかったの？」と聞いてきて、ドキッとして返事に困った。

オ 「今から育て直しをすることも可能なんですか」

(2) 相談の終結近くで出会った印象深い具体的な一言

ア 「平凡な日々を送っています」

イ 「友だちと遊ぶ」と本人が言います

ウ 「どうもありがとうございました。待つのは時間がかかるんですねえ」

3 研究のまとめ

子どもの心を理解するには、その子の行動だけでなく、子どもの背景・各年代の発達課題についても視野を広げ、理解を深めなければならない。相談で出会った印象深い一言は、その助けになるのではないかと考え、検討した。教師が子どもをどう理解するかの一助になったであろうか。

子どもの一言や行動に対して、周囲の受け取りいかんでは、極端な場合、破壊をもたらす結果に終わるということもままある。心の問題に対する対応は簡単ではない。そういった教育の場に、少しでも心理臨床的な視点を生かすことが課題と考える。今後もそういった視点での考察を重ねていきたい。